

第2回 冑山バス停から下沼と武蔵松山城・吉見百穴

実施日 2020（令和2）年3月18日（水） 天候 快晴 暖かい

参加者 折本文夫、宇山 治男、中田 信義、中島 征雄 計 4名。

GPSデータ

歩行距離：9.9km。 累計歩行距離 19.8km。

全体所要時間：3時間44分。移動時間：2時間49分。停止時間：55分。

移動平均速度：3.54km/h。全体平均速度：2.67km/h。

前回の続きを辿ると、上岡馬頭観音堂からの歩きとなるのだが、なにも無くただ淡々と歩くことになるので、今日の出発地を冑山バス停とした。

9時45分、東松山駅でバスに乗り、10時2分冑山バス停に着く。10時04分出発。国道407号線を横切り、旧街道の県道に出て南下。150m弱の左側に立派な塀があり、その続き奥に熊谷市指定文化財の「根岸家長屋門」がある。（10：09）この「長屋門」は江戸時代後期の建築と思われる。東西脇部屋を持つ門は大きすぎて写真に入りきれない。剣術道場であった西脇部屋は今は「根岸友山・武香ミュージアム」として公開されているので、見学。（10：21）その後、根岸家墓地を御参り。

県道を30m歩と進んだ十字路までが熊谷市で、ここで東松山市に入る。600m弱で国道に合流し、1km程を進むと国道407号線と県道66号線が交わる東平交差点がある。交差点で県道を左に渡り30m程で左に入る道があり、左角に「地藏尊」と「馬頭観音」がある。（10：52）この道が「千人同心日光往還」である。

その先、角川を渡った右側に「覚性寺」とその「薬師堂」がある。「薬師堂」の扁額には『瑠璃殿』と書かれてある。ここで少し休憩。（11：00～09）

街道（県道66号線）を進み、松平橋で滑川を渡り、坂を上り、道路の下を潜った先の左側に「道標を兼ねた地藏尊」がある。台座には『行田海道 四里 熊谷海道 三里』とある。（11：20）

市野川を渡り、坂を上って行くと右側に大きな池のある「上沼公園」がある。ここで昼食とする。（11：38～55）

昼食後、松山神社を訪れ、街道（県道）に出て右折し、650m程進んだ「東松山市立図書館」の先で街道は県道から左の道に入り右カーブする。街道は直ぐに東松山駅からの大通り（東松山鴻巣線）に出る。街道は大通りを渡り直進する。

今日の「大山街道八王子道」はここまで。（12：16. ここまでの歩行距離は6.1km）この後は、1キロ半東松山鴻巣線を歩き「武蔵松山城址」と「吉見百穴」の見学に向かう。

市野川を渡り右折すると松山城址への登り口がある。（12：37）松山城址は平成20年（2008）に国指定史跡「比企城館跡群」に指定された城址である。松山城は戦国時代、歴史の要所要所に出てくる、幾度もの攻防戦が行われた北武蔵屈指の平山城である。標高差約40mの細い急坂を上ると「本曲輪跡」がある。本曲輪、二ノ曲輪、三ノ曲輪、惣曲輪と廻り、岩室観音堂に降りようとしたが道が崩れていたため、虎口から車道に出て「吉見百穴」に向かう。（13：01）

「吉見百穴」は古墳時代の後期から終末期（6世紀末～7世紀後半）に造られた横穴墓で、大正12年（1923）に国指定史跡に指定されている。この一帯は、凝灰質砂岩で掘削に適している。

明治20年（1887）東京帝大大学院生であった人類学者坪井正五郎が地元の人々の協力を得て（その一人が前述の根岸武香）全面発掘、237基の横穴を発掘した。太平洋戦争末期には、吉見百穴

一帯の丘陵斜面に地下軍需工場が造られ、そのため十数基の横穴墓が壊され、現在確認できる横穴墓の数は219基。

その他、国指定天然記念物の「吉見百穴ヒカリゴケ」がある。縄文時代の土器や土偶ほか展示されている「吉見町埋蔵文化財センター」は新型コロナウイルスの拡散防止のため、残念ながら休館。

吉見百穴からバス停に向かう途中、松山城址の西側の断崖絶壁に懸造りの「岩室観音堂」があるので寄る。胎内くぐりや四国八十八か所めぐりの石仏がある。(13:35~41)

岩室観音堂から市野川を渡り「百穴バス停」に向かう。バス停に13時48分到着。54分発東松山駅行のバスに乗る。

以上



根岸家長屋門



日光往還道 地藏尊・馬頭観音



覚性寺薬師堂



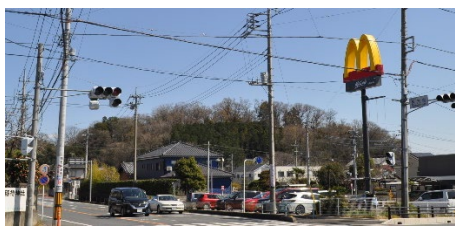
道標を兼ねた地藏尊



上沼公園昼食



松山神社



松山城址遠望



松山城址本曲輪



吉見百穴



岩室観音堂